

13日、ロサンゼルスで記者会見した全米映画俳優組合のフラン・ドレシャー代表（前列右から3人目）ら（ロイター）



# 米俳優組合スト

## 16万人が待遇改善求める

### AI規制も要求

【ワシントン＝石黒みずほ】

全米映画俳優組合（SAG-AFTRA）は、制作会社らとの契約交渉が決裂したことから、14日からストライキに入ることを13日に決定しました。同組合のストの実施は43年ぶりで、全米脚本家組合（WG A）は5月からストを続けており、両組合が同時にストを行うのは68年ぶりとなります。

全米映画俳優組合は、ハリウッド俳優やアナウンサーなど約16万人を代表。同組合はWGAと同様、基本

給与や動画配信サービスによる作品の再使用料の引き上げ、俳優の声や容姿を再現できる人工知能（AI）の規制などを求めてきました。この間、契約期限を延長し、連邦政府も調停に入ったものの、合意に至りませんでした。

全米映画俳優組合は13日の記者会見で、理事会が全会一致でストを承認したと発表。同組合代表で俳優のフラン・ドレシャーさんは、制作会社側の対応について「経営トップには何億もの報酬を出しておいて、どうしてお金がないなどと言えるのか。『もうこれ以上受け入れない』と言わなければならない」と訴えました。

同組合は交渉が決裂した場合にストを実施することを、98%の賛成で決めています。

契約期限が迫る中、メル・ストリープさん、ベン・ステイラーさんら著名なハリウッド俳優を含め100人以上がストに参加する意向を表明。俳優のジェイミー・リー・カーティスさんは12日にSNSで、現代において役者として存在する権利のためのたたかいだと指摘。「私の演技は機械では再現できない。組合を力強く支持する」と述べました。

制作会社や動画配信会社を代表する全米映画テレビ製作者協会（AMPTP）